連携だより

平成24年 10月号

平成24年10月１日発行

独立行政法人　国立病院機構
呉医療センター・中国がんセンター
地域医療連携室

〒737-0023　広島県呉市青山町３－１
TEL 0823－22－3816
FAX 0823－32－3070

URL http://www.kure-nh.go.jp/
E-mail renkei@kure-nh.go.jp

１０月１日付　地域連携室室長交代のお知らせ

交代のご挨拶

地域医療連携室長・外科医長　　畑中　信良

このたび竹原先生に代わり呉医療センター地域連携室で地域連携に携わることになりました畑中信良（のぶたか）と申します。これまでは消化器外科医として、地域のさまざまな医療機関のみなさまにお世話になってきました。これからはそれに加えて、医療センターと地域の皆さんの連携に少しでもお役に立てるよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

お礼の言葉

前地域連携室長・婦人科科長　竹原　和宏

平成19年４月より呉医療センターの地域連携室で仕事をさせていただきました。

この数年間で地域連携の業務内容はめまぐるしく変化し、いまや連携業務なくして地域医療は成り立たない状況になってきました。「地域連携はコミュニケーション」と考え、双方向の連携を目指してまいりましたが、至らぬ点が多々あり、各医療機関の皆様にはいろいろとご迷惑をおかけしました。

10月からは広島大学病院へ転勤します。５年半の間、大変お世話になりました。今後、地域連携を通じて呉地区の医療がますます発展することを祈念いたします。

救急外来へのご紹介について

救急車で搬送する患者様のご紹介は、救命救急センター医師が症状等を直接お伺いさせていただきますので、「救急外来受付」まで電話でご連絡いただきますようお願い申し上げます。

平　日　昼　間	８：30～17：15	０８２３－２２－３１１１
土・日および夜間	17：15～８：30	０８２３－２３－１０２０

内科オープンカンファレンス

日　時　平成24年**10月25日㈭**　19：00～

場　所　呉医療センター管理棟４階　研修センター１・２

医長講義　**「胸膜疾患について」**

内科系診療部長・呼吸器内科科長　　中野　喜久雄

症例１：　**（仮）「PCI 後に胸痛を起こした一例」**

循環器内科医師　　西本　織江

症例２：　**（仮）「入院後に増悪した視床出血の一例」**

神経内科医師　　久賀　淳一朗

地域医療研修センター定期講演会のお知らせ

演題および講師　**「抗がん剤の副作用」**

呉医療センター・中国がんセンター
臨床研究部先進医療研究室長　兼　臨床腫瘍科医長

木場　崇剛

日　時　平成24年**10月29日㈪**　19：00～20：00

場　所　呉医療センター管理棟４階　研修センター１・２

抗がん剤治療で重要なことは、効果的に患者の生存期間を延長することも重要であるが、まず安全に施行することが重要である。抗がん剤の注意すべき点としては、安全域が狭く、そのほとんどが劇薬か毒薬であること、および重篤な副作用が多いことが挙げられる。そのために抗がん剤における臨床試験のエンドポイントは、第Ⅱ相試験では、生存期間の代替エンドポイントである奏効率や無増悪生存期間、無病生存期間であるが、まず最初に行われる第Ⅰ相試験のエンドポイントは有害事象の評価である。今回、当院化学療法センターで行われている各種がん腫に対する抗がん剤治療の副作用の概説およびその対策をわかりやく述べて行きたい。

がんサロンのご案内

10月12日（金）別紙ポスターの通り、「がんサロン」を開催します。

地域連携室から検査結果送付についてのお願い

平素は地域医療連携室業務への格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

実は、昨今の個人情報の管理上、（地域連携室業務でも注意しておりますが、）ＦＡＸでの検査データの送信にまつわるトラブルが起こりやすくなっております。

そこで、地域の先生方には患者氏名の入った検査データのＦＡＸ送信は極力控えて頂き、検査データは主治医宛の郵送での送付をお願い申し上げます。

無論、緊急の場合はＦＡＸを利用していただいて結構です。しかし、その場合も後日で結構ですから正式な検査データを郵送してください。ご協力をお願い致します。

内視鏡同意書変更のお知らせ

平素は内視鏡検査業務への格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、９月26日から上部、下部の内視鏡同意書が変更されましたので、お知らせいたします。新しい同意書は、より安全に検査を受けていただくため、合併症を防止する上でより具体的な情報を患者さんに記入していただくようになっております。

地域の先生がたには、ご面倒をおかけいたしますが、ご協力をよろしくお願い致します。

＜上部消化管内視鏡検査同意書＞（提出用）

独立行政法人国立病院機構　呉医療センター院長殿

私は、上部消化管内視鏡検査についての説明を受け、その内容を十分理解しました。またこの治療を受けるかどうか検討するにあたり、その為の時間も十分に与えられました。以上のもとで、自由な意思に基づき、この治療を受けることに同意します。なお、説明文書と同意書の控えを受け取りました。

- ☐ 病名・病態
- ☐ 治療（検査）の目的・必要性・有効性
- ☐ 治療（検査）の内容と性格及び注意事項
- ☐ 治療（検査）に伴う危険性とその発生率
- ☐ 偶発症発生時の対応
- ☐ 代替え可能な治療及びそれに伴う危険性とその発生率
- ☐ 治療（検査）を行わなかった場合に予想される経過
- ☐ 同意後の撤回

説明年月日：@SYSDATE

説明医師名：　　同席者氏名

患者さん御本人の記入です。

≪検査での合併症を防ぐために下記の質問にお答え下さい≫

（当てはまる方へ○をつけ、詳細を記入して下さい）

質問項目	質問に対する答え	
血液が固まりにくい病気と言われたことがある	はい（病名　　）	いいえ
血液が固まるのを防ぐ薬を飲んでいる	はい（薬品名　　） 内服続行　または　内服中止 内服中止開始日（　　／　　）	いいえ
今までに薬・局所麻酔などでアレルギーやショックを起こした事がある	はい （薬品名　　）	いいえ
心臓病がある	はい（病名　　）	いいえ
ペースメーカーを入れている	はい（手帳を持参して下さい）	いいえ
糖尿病がある	はい	いいえ
緑内障がある	はい	いいえ
前立腺肥大がある	はい	いいえ

同意年月日:平成　年　　月　　日　同意者（本人自筆署名）

＊患者さんに同意能力が無い場合又は自筆署名できない場合には、代諾者が下記へ関係を記載して自筆署名して下さい。

代諾者（自筆署名）：　　（患者さんとの関係：　　）

患者さんの自筆の署名をお願いします。

独立行政法人国立病院機構　呉医療センター

「精神科リエゾンチーム」の活動について

９Ａ病棟（精神科病棟）副看護師長　藤井　彩

精神科リエゾンチームとは、一般病棟におけるせん妄や抑うつといった精神科医療のニーズの高まりを踏まえ、一般病棟に入院する患者の精神状態を把握し、精神科専門医療が必要な者を早期に発見し、可能な限り早期に精神科専門医療を提供することにより、症状の緩和や早期退院を推進することを目的としています。また、平成24年の診療報酬改定に伴い、「精神科リエゾンチーム加算」として算定できることになりました。

そのような、社会的背景を受け、当院でも今年４月より、「精神科リエゾンチーム」を立ち上げ、活動を開始しました。

当院の精神科リエゾンチームは、精神科医師、精神科うつ病看護認定看護師、薬剤師、心理療法士で構成しており、週２回、精神科リエゾンチーム回診を実施しています。対象患者の入院している病棟を回診し、患者の精神状態（抑うつ症状、苛々、せん妄など）や夜間の睡眠状態、家族関係などのアセスメントを行い、対象患者の身体的な状況も含めた上で、効果的で総合的なケアプランを計画し、その実践援助と定期的な見直しを行っています。

現在は、抑うつを訴えられている患者さんや、夜間せん妄のある患者さん、治療適応が困難な患者さん、ターミナル期における精神的ケアを必要とする患者さんなど、様々な状況の患者さんやご家族の支援に繋げるように、病棟看護師とのコミュニケーションを図り、精神科病棟以外の病棟でも最良の精神科専門医療が提供できるように活動を行っております。

本格的にチームが稼動してからは、まだ４ヶ月といったところですが、徐々に活動件数も増加してきております。

近年、「こころの時代」と言われるように、こころの病気を経験される方は、増えてきております。入院され、病気を治療する方にとっては、体の悩みだけでなく、何かしらこころの悩みを抱えられることも多くあると思います。そのような患者さんやご家族の精神的なケアに関する専門的な知識や技術を提供するとともに、医療従事者などへの教育、院内および地域でのメンタルヘルスの啓蒙なども今後、積極的に行っていきたいと考えております。

また、総合病院の中の精神科としての役割を積極的に果たし、地域との連携により、切れ目のないケアの提供を行っていくことで、患者さんやご家族のこころのケアの充実に努めて行きたいと思います。

＜精神科リエゾンチーム回診風景＞